

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第26週の発生動向

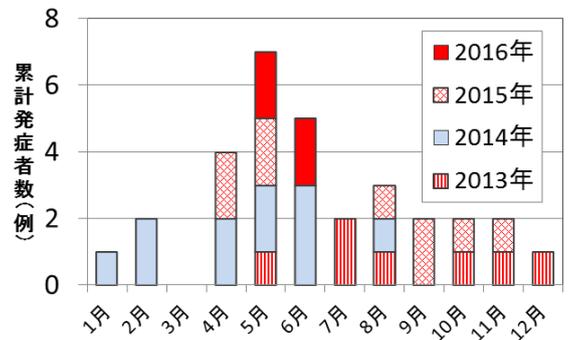
トピックス

・**重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)** (全数報告の感染症) の報告が延岡保健所から1例あった。県内での報告は今年4例目で、累計31例(平成25年3月届出開始以降)となった。患者は80歳代女性で、発症は6月中旬であった。ダニの刺し口と思われる発赤があり、海外渡航歴はなかった。

県内のSFTS年齢別報告数(届出開始以降)

30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	9	8	9	1

県内のSFTS月別発症者数(届出開始以降)



全数報告の感染症(26週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核5例。3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症1例。
4類感染症：重症熱性血小板減少症候群1例。5類感染症：報告なし。

疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類 結核	宮崎市	70歳代	男	肺結核	咳、痰
	日南	50歳代	女	無症状病原体保有者	—
		60歳代	女	無症状病原体保有者	—
	高鍋	50歳代	女	無症状病原体保有者	—
	中央	50歳代	男	無症状病原体保有者	—
3類 腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	20歳代	男	—	腹痛、血便、O26(VT1.2産生)
4類 重症熱性血小板減少症候群	延岡	80歳代	女	—	神経症状、下痢、食欲不振、血小板減少、刺し口と思われる発赤

定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は778人(定点当たり24.6)で、前週比107%とやや増加した。前週に比べ増加した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナで、減少した主な疾患は水痘と伝染性紅斑であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【ヘルパンギーナ】

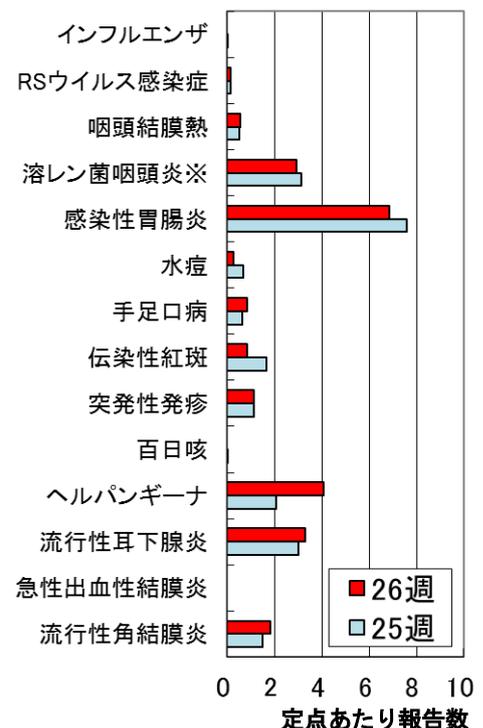
・報告数は147人(4.1)で、前週比199%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(5.1)の0.8倍であった。高鍋(7.5)、日南、中央(各6.0)保健所からの報告が多く、年齢別では1~2歳が全体の約7割を占めた。

【流行性耳下腺炎】

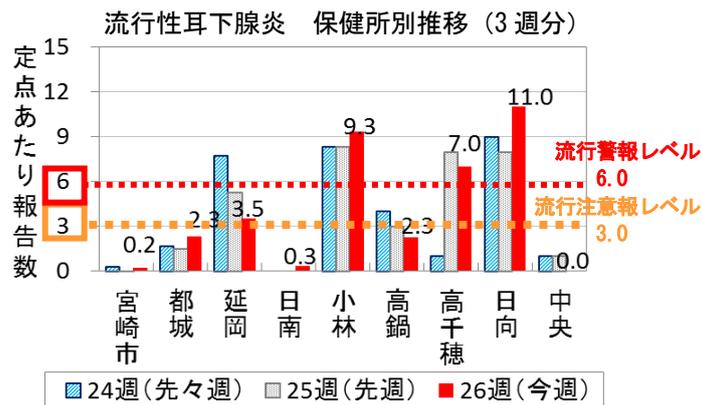
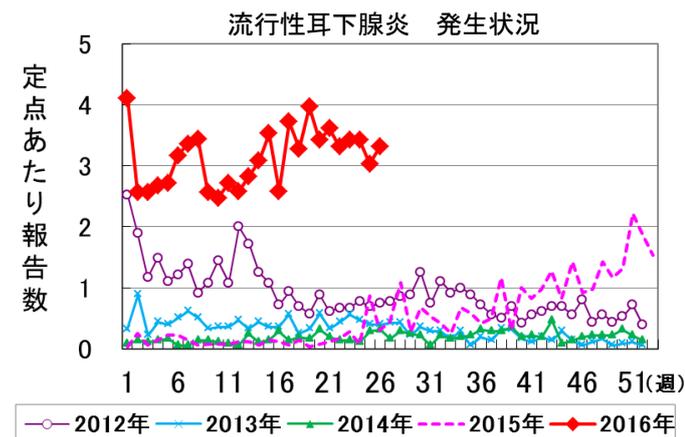
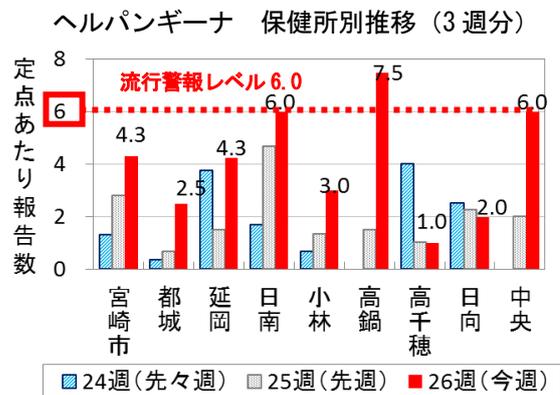
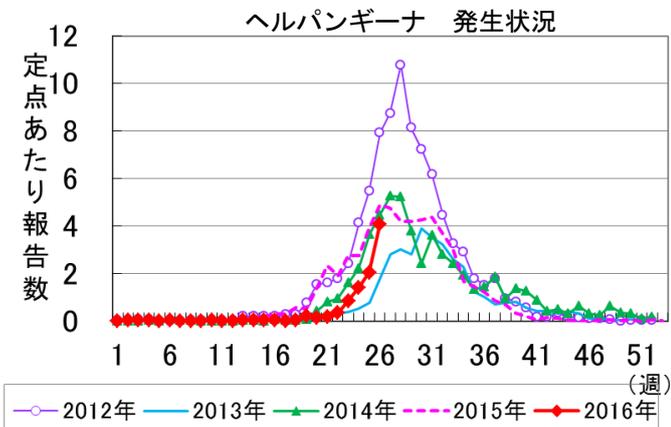
・報告数は119人(3.3)で、前週比109%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.78)の約4.2倍であった。日向(11.0)、小林(9.3)、高千穂(7.0)保健所からの報告が多く、年齢別では3~5歳が全体の約半数を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：宮崎市(8例)、高鍋(3例)、日南、日向(各1例)保健所から報告があった。
1～4歳が4例、5～9歳が5例、10歳代が4例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	流行性耳下腺炎(3.5)
日南	ヘルパンギーナ(6.0)
小林	伝染性紅斑(2.7)、流行性耳下腺炎(9.3)
高鍋	ヘルパンギーナ(7.5)
高千穂	流行性耳下腺炎(7.0)
日向	流行性耳下腺炎(11.0)
中央	ヘルパンギーナ(6.0)

流行警報レベル開始基準値

- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・ヘルパンギーナ(6.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

流行注意報レベル基準値

- ・流行性耳下腺炎(3.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成28年7月4日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC(OUT:HUT)	10歳代	女	2016.6.14	—	便	2016.6.28
EPEC(OUT:HUT)	50歳代	男	2016.6.20	出血性下痢	便	2016.7.4

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
エコーウイルス16型	0～4歳	女	2016.05.25	新生児発熱、無呼吸発作	便(再掲) 咽頭ぬぐい液	2016.06.13 2016.06.27
エコーウイルス16型	5～9歳	男	2016.05.25	ウイルス性発疹	咽頭ぬぐい液	2016.06.27
パレコウイルス3型	0～4歳	女	2016.06.13	ウイルス感染症疑い、40℃、発疹 胃腸炎	咽頭ぬぐい液	2016.06.29
パレコウイルス3型	0～4歳	男	2016.06.16	乳児早期発熱、40℃ 皮膚に紅斑	血清	2016.06.29
ヘルペスウイルス6型	0～4歳	女	2016.05.24	ヘルペス口内炎、37.9℃	咽頭ぬぐい液	2016.06.28
ヘルペスウイルス6型	0～4歳	女	2016.06.12	急性脳症(二相性脳症)、40℃ 熱性けいれん、意識障害	血清	2016.06.23

○発熱、発疹乳児 2 名からパレコウイルス 3 型が検出された。パレコウイルス感染症は、国内では、2008 年、2011 年、2014 年に流行している。当所では、2014 年からパレコウイルスの検査を開始し、2014 年に 21 件、2015 年に 3 件検出された。今年も、現在までに 4 件検出されており、今後の動向に注意する必要がある。

○ヘルペス口内炎の乳児と急性脳症の乳児からヘルペスウイルス 6 型 (HHV6) が検出された。HHV6 は、初感染後、唾液腺、リンパ節、神経系などに潜伏感染するため、咽頭ぬぐい液から遺伝子が検出されても、病的意義は低く、口内炎との因果関係については不明である。一方、血清から検出された場合は、初感染や再活性化が考えられ、病的意義が高い。また、HHV6 は、突発性発疹の原因ウイルスの一つであるが、まれに脳炎・脳症を起こすことがある。

🇯🇵 全国 2016 年第 25 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 25 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	381 例				
3類感染症	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症	101 例		
4類感染症	E 型肝炎	4 例	A 型肝炎	5 例	重症熱性血小板減少症候群	5 例
	デング熱	1 例	日本紅斑熱	6 例	マラリア	1 例
	レジオネラ症	35 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	10 例	ウイルス性肝炎	1 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	19 例
	急性脳炎	9 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	4 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4 例
	後天性免疫不全症候群	16 例	ジアルジア症	2 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	26 例	水痘 (入院例)	6 例	梅毒	71 例
	播種性クリプトコックス症	1 例	破傷風	2 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例
	風しん	3 例	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 例		

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 102% とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナであった。減少した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎であった。

流行性耳下腺炎の報告数は 3,554 人(1.1) で前週比 107% と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.54) の約 2.0 倍であった。宮崎県(3.0)、佐賀県(2.9)、山形県 (2.2) からの報告が多く、年齢別では 4~5 歳が全体の約 3 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第26週(6月27日～7月3日)

疾病名		第25週	第26週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1										
	定点あたり	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	6	6	3	2	1						
	定点あたり	0.17	0.17	0.30	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	18	20	1	2	7	5	4	1			
	定点あたり	0.50	0.56	0.10	0.33	1.75	1.67	1.33	0.25	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	113	105	35	12	12	15	2	11	4	12	2
	定点あたり	3.14	2.92	3.50	2.00	3.00	5.00	0.67	2.75	4.00	3.00	2.00
感染性胃腸炎	報告数	273	247	61	60	11	30	42	13	4	23	3
	定点あたり	7.58	6.86	6.10	10.00	2.75	10.00	14.00	3.25	4.00	5.75	3.00
水痘	報告数	25	9	1	2	2	4					
	定点あたり	0.69	0.25	0.10	0.33	0.50	1.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	23	30	6	3	4	7	2	1	2	5	
	定点あたり	0.64	0.83	0.60	0.50	1.00	2.33	0.67	0.25	2.00	1.25	0.00
伝染性紅斑	報告数	60	30	8	6			8	6	1	1	
	定点あたり	1.67	0.83	0.80	1.00	0.00	0.00	2.67	1.50	1.00	0.25	0.00
突発性発しん	報告数	40	41	6	6	8	7	4	7		3	
	定点あたり	1.11	1.14	0.60	1.00	2.00	2.33	1.33	1.75	0.00	0.75	0.00
百日咳	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	74	147	43	15	17	18	9	30	1	8	6
	定点あたり	2.06	4.08	4.30	2.50	4.25	6.00	3.00	7.50	1.00	2.00	6.00
流行性耳下腺炎	報告数	109	119	2	14	14	1	28	9	7	44	
	定点あたり	3.03	3.31	0.20	2.33	3.50	0.33	9.33	2.25	7.00	11.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	9	11	10		1						
	定点あたり	1.50	1.83	3.33	0.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	6	13	8			1		3		1	
	定点あたり	0.86	1.86	8.00	0.00	0.00	1.00	0.00	3.00		1.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～26週)

2類感染症	結核	108例(5)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7例(1)				
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	4例(1)
	つつが虫病	5例	日本紅斑熱	2例	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	11例	ウイルス性肝炎	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2例
	急性脳炎	8例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	2例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	4例
	梅毒	5例	播種性クリプトコックス症	3例	破傷風	1例

()内は今週届出分、再掲